

教育研究業績書

2020年10月27日

所属：看護学科

資格：助教（臨床）

氏名：川原 恵

研究分野	研究内容のキーワード
基礎看護学	看護技術, 入眠援助の検証
学位	最終学歴
修士(看護学)	武庫川女子大学大学院 看護学研究科 看護学専攻

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1. 基礎看護学実習の実習指導者	2019年5月1日2020年2月	武庫川女子大学看護学科の2年生を対象に、基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱの実習指導者として、学生が主体的に実習に臨むことができるように、社会人としての基本的事項から、より実践的な受け持ち患者に即した看護計画となるような指導を心がけている。論理的思考力の育成・論述する力をつけることができるよう記録の作成などを個別に指導している。
2. 学生委員として学生生活への支援	2019年5月1日2020年2月	学生委員として、教員と学生の交流会の開催や卒業証書授与会の設営準備など、充実した学生生活となるように支援した。
3. 大阪市立大学医学部看護学科 特任講師	2018年09月25日2019年03月08日	大阪市立大学医学部看護学科の3年生の成人急性期看護学実習の実習指導者として、周手術期の患者に対しての看護展開の指導、急性期にある患者・家族との対応の中で学生自身が看護の振り返るための支援を行った。学生の想いを共に振り返ることで、学生が自身の看護実践での課題を抽出し、また、強みを見つけることができた。
4. 武庫川女子大学看護学科 実習補助	2018年05月22日2018年05月29日	武庫川女子大学看護学科の2年生を対象に、基礎看護学実習Ⅰの実習指導者として、学生それぞれの視点からの学びを支援し看護実践の実際を体験させ今後の学習につなげることができた。
5. 大阪市立大学医学部看護学科 助手	2014年05月01日2015年03月31日	大阪市立大学医学部看護学科の2年生を対象に、通年の基礎看護学演習の看護技術指導を自身の看護師経験を交えて補助教員として指導し、学生の学習意欲を高めることができた。同大学の2年生を対象に、前期基礎看護学実習Ⅰの実習指導者として、学生それぞれの視点からの学びを支援し看護実践の実際を体験させ今後の学習につなげることができた。
2 作成した教科書、教材		
1. 電法に関する資料	2019年10月	基礎看護技術演習Ⅰで、診療補助技術の前半で学習する科目である。生体への影響が大きく、目的と援助方法が一致しなくてはならない。そのため、解剖学・生理学の知識を確認しながら説明し、学生が根拠に基づいて援助を考えることができるよう事例を加えるなどの工夫を行い、資料を作成した。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 実習指導者としての役割モデルを果たした	2009年04月01日2018年03月31日	看護学生の臨床実習に対して関心を示さず指導に非協力的であった病棟の看護師に対して、率先して指導を行う姿勢を示し、役割モデルをとるように努めました。その結果、病棟看護師全員で実習指導に取り組むことができた。
2. 臨床看護師として実習指導を担当	2009年04月01日2018年03月31日	主に急性期病棟で『基礎看護学実習』『成人看護学実習』の臨床指導者として、学生の指導を約10年近く担当した。指導では、看護の初学者である学生達が、看護のやりがいと達成感を実感できるような関わりを心がけて実践した。具体的には、学生が根拠に基づいた知識と技術の大切さに気付き、自分課題を明確化できるように接し、学生と一緒に患者の声に耳を傾けながら個別性を考慮した指導を行い、学生それぞれのやりがいを見いだした。
3. 臨地実習の環境整備を推進	2009年04月01日2018年03月31日	看護技術物品や記録・カンファレンスルームの確保など、学生の臨地学習環境の整備について看護管理者に提案し実現した。
4 その他		
1. 看護学部広報入試委員	2019年5月1日2020年2月	オープンキャンパスの運営や学科パンフレットの作成に携わり、広報活動として看護学部のブログを分担して担当した。
2. 看護学部学生委員	2019年5月1日2020年2月	学生委員として、充実した学生生活となるように支援した。
3. コミュニティ防災教室活動	2018年06月01日2019年03月31日	大阪市立大学都市防災教育研究センターでは地域連携事業として、地域住民の防災力を培うことを目標にコミュニティ防災教室を開催。一般市民を対象に災害時の負傷者に多い出血、骨折、火傷を取り上げ、出血に対する

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
		止血法、骨折に対する添木、火傷に対する応急処置の具体的な方法と注意点についての専門的な知識の教授と、技術の指導をした。受講者からは「知識の獲得」「必要に迫られた時に役に立つ」「自信がついた」などの声がきかれ、好評を得ることができた。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. BLS/ICLSインストラクター研修修了	2014年01月30日	
2. 実習指導者講習会修了	2010年07月01日	
3. 看護師免許	2004年04月08日～現在	
2 特許等		

3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 看護フェスタでの実習室企画運営	2019年9月	地域住民の方々を対象に、シミュレーションモデル(シムマン)を用いて、身近な話題から専門的な内容へと企画し、わかりやすい言葉で説明しながら、血圧・脈拍・呼吸・瞳孔測定体験を行った。参加者からは「体験ができてよかった。」などの声がきかれ、好評を得ることができた。
2. オープンキャンパスでの実習室企画運営	2019年5月1日2020年2月	オープンキャンパス時に、高校生や保護者を対象に、基礎看護学実習室の説明や演習体験、白衣着用体験など受験生対応を行っている。看護の基礎的な部分に興味を持ってもらえるよう、平易な言葉でわかりやすく説明することを心がけている。
3. 病院内新人教育委員会委員	2017年10月01日2018年03月31日	主な活動としては、看護技術マニュアルの見直しと修正に取り組んだ。看護技術のエビデンスレベルについて調べることによって、看護技術の安全性に貢献し、看護スタッフの看護技術に対する手技の再確認だけでなく、興味・関心をもってもらうことができ、大きな成果を得た。
4. 病棟内事故防止委員会委員	2007年09月30日2010年03月31日	事故防止委員会委員として、病棟内のヒヤリ・ハット事例検討会を定期的実施する等啓蒙活動を実施したところ、ヒヤリ・ハットレポート提出率の増加とともに事故事例が減少した。
5. 病院内事故防止委員会委員	2007年09月30日2010年03月31日	病棟内事故防止委員会活動と連動して病院内事故防止委員会運営に携わった。主な活動としては、1)事故防止マニュアルの見直しと修正、2)5S(整理・整頓・清掃・清潔・しつけ)活動の推進に取り組んだ。特に、5S活動の推進によって、5Sを定着化することに貢献し、作業効率を上げるとともに、看護スタッフの事故防止に対するモチベーションを向上させることができ、大きな成果を得た。これらの活動成果を院内で発表した。口頭発表にあたっては、視覚効果を狙って写真の並べ方を工夫したり、手書きのポスターを多用する等にも工夫し、好評を博した。

4 その他		
1. 医誠会病院 副院長主催急変時対応研修会インストラクター活動	2014年01月31日2015年03月31日	医誠会病院において、認定看護師、救急救命士、臨床工学技士と協力し、院内全職員を対象にした「急変時対応研修」に携わった。私が担当していたのは、救急蘇生法の専門的な知識の教授と、技術の指導です。受講者からは好評であると同時に、断らない救急を合言葉に全職員の救命技術のレベルアップを実現させることができた。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
2 学位論文				
1. 健常成人女性における後頸部温電法の入眠促進に及ぼす影響	単	2017年03月	武庫川女子大学大学院看護学研究科修士課程	概日リズムの影響が少ない時間帯に実験時間を設定し、健常成人女性の乾熱法による後頸部温電法が入眠促進に影響するのについて検討を行った。後頸部温電法の実施により心拍間隔時間の延長が早く現れたのは、副交感神経活動が優位となっていることが考えられ、入眠促進に影響を及ぼす可能性が示唆された。
3 学術論文				
1. 国内外における遺伝性乳がんの看護を探る	共	2019年3月	大阪市立大学看護学雑誌, 15, p. 8-16	本研究の目的は、文献レビューを通して、国内外における遺伝性乳がん患者への看護の実態を知り、わが国の遺伝看護に関する課題を明らかにすることである。レビュー対象として抽出した56件の文献の

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
2. 視覚障がい者の健康と首尾一貫感覚(SOC)の実態調査	共	2019年11月	都市防災研究論文集, 6 , p.9-14	内容を主要テーマ別に分類し検討した。結果、国外においては、BRCA1・BRCA2遺伝子変異保有者は、診断告知後、遺伝情報に関する問題・サーベイランスの方法など、様々な情報を必要としており、多くの不安を抱えていることが示唆された。国内においては、遺伝性乳がん患者への看護は、端緒についたばかりであると考えられた。本人の担当部分：調査補助(樫木政子、西尾聡子、作田裕美、川原恵、村川由加理)
3. 乾熱法の後頸部温罨法による心拍間隔時間と末梢皮膚温の変化	共	2019年03月20日	武庫川女子大学看護学ジャーナル, 4, pp. 35-45	本研究の目的は、乾熱法を用いた後頸部温罨法による心拍間隔時間と末梢皮膚温の変化を検討することである。成人女性15名に、後頸部温罨法を30分間行い、心拍間隔時間(以下IBI値)、手足の表面皮膚温度の測定を行った。また、同一被験者に後頸部温罨法を行わない対照群を設定し、同様の測定を行った。結果、IBI値の増大が測定開始後、対照群は21分のみで、実験群は12分から27分まで持続していた。後頸部温罨法の実施によりIBI値が大きくなるまでの時間が早く現れ、IBI値の増大が持続しているのは交感神経活動の抑制が考えられた。本人の担当部分：研究統括、データ収集・入力・分析、成果報告(川原恵、片山恵、阿曾洋子)
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
1. 健康高齢者に対する電動ベッドにおける身体負荷を考慮した背下げ方法の検討-筋活動・主観評価の視点から-	共	2018年10月	第26回 看護人間工学部会 総会・研究発表会 (兵庫県)	電動ベッドにおける身体負荷を考慮した背下げ方法を筋活動と主観的評価の観点から検討することを目的とし、70~75歳の女性高齢者11名を対象に実験研究を行った。研究方法は、背ボトムを60°から0°まで一気に下げる方法(対照群)と背ボトムを60°から30°まで下げたところで一旦止めて背抜きを行い、30秒の安静後に背ボトムを0°まで下げる方法(実験群)とし、対象者の筋活動と主観評価(VAS)を測定した。結果では対照群において筋活動が安静時より大きく、対象者は水平より下がると感じており必要以上の身体負荷がかかる方法であったと考えられる。一方実験群では筋活動が安静時より大きく、対象者は頭が水平より下がると感じていた。実験群は必要以上の身体負荷がかかる方法であるとは言いきれず、今後も様々な方法で検証する必要がある。本人の担当部分：実験補助 発表者：谷川茜、藤田晴久、川原恵、田丸朋子、岩崎幸恵、片山恵、阿曾洋子
2. 健康成人女性における後頸部温罨法の入眠促進に及ぼす影響	共	2018年03月17日	日本看護学研究会 第31回近畿・北陸地方会 学術集会	武庫川女子大学にて開催の学術集会において、修士課程での研究成果である入眠促進に影響を及ぼす後頸部温罨法に関するポスター発表を行った。(共同発表者：川原恵、片山恵、阿曾洋子)
3. 総説				
4. 芸術(建築模型等含む)・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
6. 研究費の取得状況				
1. 汚染除去可視化による清潔のセルフケア能力アセスメントツールの開発	共	2019年4月	日本学術振興会	令和元年度 科学研究費(基盤研究C:19K10817) 分担研究者 (代表：片山恵-武庫川女子大学)
学会及び社会における活動等				
年月日			事項	

学会及び社会における活動等

年月日	事項
1. 2017年12月～現在	日本看護研究学会
2. 2015年09月～現在	日本睡眠学会